

執筆要領（日本語版・2022年9月改訂）

1. 原稿

- (1) 原稿は、文章と図・表にわけること。文章は、論文の題目、著者名、キーワード、所属、章構成、摘要、本文（付記を含む）、注、文献表、英文要旨とその翻訳からなる。すべてのページに行番号を付し、ページごとに行番号を振り直すこと。図・表は、ページごとの行番号は不要である。写真は図として扱う。
- (2) 文章は、A4 サイズを縦に使用し、上下の余白を各 2 cm、左右の余白を各 5 cm とする。1 ページに 21 字×38 行印刷し、行間を十分にあける。図・表は、A4 サイズにおさめること。
- (3) 人名や術語等の特別なものを除き、常用漢字および新かなづかいを使用する。
- (4) 句点は「。」を、読点は「,」を用いる。
- (5) 年号は原則として西暦を使用し、和暦が必要な場合は（ ）に入れて記す。
【例】1990（平成 2）年
- (6) 年号等を除き、4 ケタ以上の整数には 3 ケタ区切りのカンマ（,）を入れる。
- (7) 1 ケタの数は、原則として全角文字とする。
- (8) 数式の表記は 2 行分を用いる。
- (9) 動植物等の学名は斜字体（イタリック）を使用し、可能な限り和名を並記する。
- (10) 論説・展望・短報・フォーラム・シンポジウム論文・翻訳には、英語による題目と著者名を付記する。
- (11) 論説・展望・短報・フォーラムには、ネイティブもしくは専門業者の校閲を経た英文要旨およびそれに対応する日本語文を添付する。ネイティブもしくは専門業者の校閲を受けることができない場合は、受理後に、学会が指定する業者の校閲を本人負担で受けること。シンポジウム論文にも英文要旨を付けることができる。
- (12) 翻訳、書評以外には 400～600 字程度の摘要をつける。
- (13) 章番号はローマ数字、節番号はアラビア数字、項番号はローマ数字（小文字）で記す。
【例】章番号：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 節番号：1), 2), 3), 項：i, ii, iii
- (14) 斜字体（イタリック）、太字体（ゴシック、ボールド）、ギリシア文字を用いてもよい。

原稿の種別	刷り上がり ページ	1 ページ文字数	摘要	キー ワード	英語 題目	英文 要旨	英 語 キーワード
論説	21	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
展望	21	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
短報	14	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
フォーラム	14	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
シンポジウム論文	10	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	○	◎
翻訳	20	21 字×38 行×2 段	×	×	◎	×	×
書評	4	24 字×45 行×2 段	×	×	×	×	×

◎：必要，○：著者の判断でつけることができるもの，×：不要

2. 注および文献の引用

- (1) 注は本文中の当該箇所の右肩に^{1),2)}……のように上付き文字で示す。
- (2) 新聞や雑誌の記事、議会の議事、あるいは統計結果等を、資料やデータとして本文中で用いた場合には、その出典は注で示す。実際にはウェブサイトのアーカイブ等を介して閲覧したものであっても、書誌等の形で一般に存在しているものについては、この扱いとする。

【例】1) 中国新聞（2011年1月15日）による。

2) 国勢調査による。

3) A 社からの聞き取り調査による。

- (3) ウェブサイトに記されている内容やそこからダウンロードしたものを、資料やデータとして本文中で用いた場合には、その出典は注で該当ページの URL (閲覧日) とともに示す。

【例】 4) 地理科学学会会則第 1 条による (地理科学学会ウェブサイト, <http://www.chirikagaku.jp/> (2021年 1 月15日閲覧))。

- (4) 文章中の文献の引用は次のように記す。

- ・引用文献の著者が 1 人の場合

【例】 ……である (米倉, 1956)。

森川 (2000, p. 40) によれば……

……といわれる (鈴木, 1974, pp. 102–103)。

これらの研究 (松井, 1931; Dacey, 1963, 1965a, b) によると……

- ・引用文献の著者が 2 人の場合

【例】 箸本・荒井 (2001) は……

Sugimura and Matsuda (1965) は……

- ・引用文献の著者が 3 人以上の場合

【例】 作野ほか (2000) は……

Bergman et al. (1991) によると……

- ・文章等を直接引用する場合

【例】 この点は「……である」(和田, 2001, p. 40)。

田中 (1968) は、「……と言える」(p. 135) と述べている。

3. 文献表

- (1) 文献表には、本文等で引用した学術論文、書籍、報告書等を掲載する。資料やデータの出典は、文献表ではなく注で記す。
- (2) 日本語の文献を先に、外国語の文献を後にする。外国語の文献は、欧語によるもの、中国語、韓国語 (日本語表記でもよい) によるものと分けてまとめる。日本語の文献は著者名の 50 音順に、欧語の文献はアルファベット順に並べる。中国語や韓国語の文献は、それぞれ著者名の当該言語の固有の配列順に並べる。
- (3) 著者 (編者や訳者等を含む。文献表について、以下同じ) が複数の場合も、省略せずに全著者名を記す。
- (4) 同一著者による複数の文献が連続する場合も、文献ごとに著者名を省略せずに記す。
- (5) 同一著者による同じ年に公表された異なる文献が複数引用される場合は、各文献の公表年に続けて、引用順に a, b, c……と付記して区別する。
- (6) 雑誌名は当該学会が定める略記法に基づき省略することができる。
- (7) 巻号のある雑誌で、巻ごとに通しページになっている場合は号数を省略する。号ごとにページが変わる場合は号数も記す。
- (8) 日本語版の原稿では、国際的な基準に合わせるために、書誌情報のアルファベット表記を併記する。その際、当該文献に翻訳としてのアルファベット表記が併記されている場合はそれを採用する。併記されていない場合は、日本語文献は投稿者によるローマ字表記を併記し、それ以外の文献は投稿者自身による英語訳を併記する。翻訳文献は、原著文献がアルファベット表記の場合は、その書誌情報を併記し、原著文献がアルファベット表記以外の場合は、投稿者自身による書誌情報の英語訳を併記する。

文献表の記載例

①日本語単行本の場合

著者名 (西暦出版年) : 『書名』 出版者名. Author, A. A. (year): *Title of work*. Publisher.

【例】

岡橋秀典 (1997) : 『周辺地域の存立構造』 大明堂. Okahashi, H. (1997): *Shuhen chiiki no sonritsu kozo*. Taimeido.

経済地理学会編 (2010) : 『経済地理学の成果と課題 第Ⅶ集』 日本経済評論社. The Japan Association of Economic Geographers (Ed.) (2010): *Keizaichirigaku no seika to kadai Dai VII shu*. Nihon Keizai Hyoronsha.

②日本語編集書の一部の場合

著者名 (西暦出版年) : 論文題目. 編者名編 : 『編集書名』 出版者名, 掲載ページ. Author, A. A. and Author, B. B. (year): Title of chapter or entry. In Editor, A., Editor, B. and Editor, C. (Eds.), *Title of book* (pp. xxx-xxx). Publisher.

→編者が1人の場合は (Ed.), 複数の場合は (Eds.) とする。

【例】

由井義通 (2004) : 住宅地域. 北川建次編 : 『現代都市地理学』 古今書院, 115-135. Yui, Y. (2004): *Jutaku chiiki*. In Kitagawa, K. (Ed.), *Gendai toshi chirigaku* (pp. 115-135). Kokon Shoin.

③日本語雑誌の一部の場合

著者名 (西暦刊行年) : 論文題目. 雑誌名, 巻数 (太字体) [-号数], 掲載ページ. Author, A. A., Author, B. B. and Author, C. C. (year): Title of article. *Title of Periodical*, **xx**, pp-pp.

【例】

川久保篤志 (2010) : 宮崎県高千穂町における肉用牛産地の成長と持続的発展への課題——20年代初頭の和牛価格高騰期に注目して——. 地理科学, **65**, 82-103. Kawakubo, A. (2010): The growth of cattle farming areas and the problem of sustainable development in Takachiho Town, Miyazaki Prefecture: Focus on the period of increase in Wagyu beef price in early 2000s. *Geographical Sciences*, **65**, 82-103.

和田文雄 (2010) : 新学習指導要領が示す高校地理のありかた——持続発展教育 (ESD) 組み込みの意義——. 地理, **55-11**, 18-22. Wada, F. (2010): Shin gakushu shido yoryo ga shimesu koko chiri no arikata: Jizoku hatten kyoiku (ESD) kumikomi no igi. *Chiri*, **55-11**, 18-22.

山田浩久・宮原育子・櫛引素夫・林 玉恵・山口泰史・初澤敏生 (2020) : Post COVID-19 に向けた東北の観光戦略. 経済地理学年報, **66**, 237-247. Yamada, H., Miyahara, I., Kushibiki, M., Lin, Y., Yamaguchi, Y. and Hatsuzawa, T. (2020): Tourism strategy for the post COVID-19 in Tohoku region, Japan. *Annals of the Association of Economic Geographers*, **66**, 237-247.

④邦訳書の場合

著者名著, 訳者名訳 (訳書の西暦出版年) : 『書名』 出版者名. 原書の著者名. (原書の西暦出版年) : 書名 (斜字体). 出版者名.

【例】

フーヴァー, E. M. 著, 西岡久雄訳 (1968) : 『経済立地論』 大明堂. Hoover, E. M. (1937): *Location theory and the shoe and leather industries*. Harvard University Press.

→原書に関する表記内容は, 邦訳書に記載されている範囲内で差し支えない。

⑤外国語論文の日本語訳の場合

著者名著, 訳者名訳 (訳書の西暦刊行年) : 日本語訳論文題目. 雑誌名, 巻数 (太字体) [-号数], 掲載ページ. 原論文の著者名. (原書の西暦刊行年) : 原論文題目. 雑誌名 (斜字体), 巻数 (太字体) [-号数], 掲載ページ.

【例】

ハーヴェイ, D. 著, 廣松 悟訳 (1997) : 都市管理者主義から都市企業家主義へ——後期資本主義における都市統治の変容——. 空間・社会・地理思想, **2**, 36-53. Harvey, D. (1989): From managerialism to entrepreneurialism: The transformation in urban governance in late capitalism. *Geografiska Annaler*, **71B**, 3-17.

きゃ	kya	きゅ	kyu	きょ	kyo
ぎゃ	gya	ぎゅ	gyu	ぎょ	gyo
しゃ	sha	しゅ	shu	しょ	sho
じゃ	ja	じゅ	ju	じょ	jo
ちゃ	cha	ちゅ	chu	ちょ	cho
ちゃ	ja	ちゅ	ju	ちょ	jo
にゃ	nya	にゅ	nyu	にょ	nyo
ひゃ	hya	ひゅ	hyu	ひょ	hyo
びゃ	bya	びゅ	byu	びょ	byo
ぴゃ	pya	ぴゅ	pyu	ぴょ	pyo
みゃ	mya	みゅ	myu	みょ	myo
りゃ	rya	りゅ	ryu	りょ	ryo

				イエ	ye
	ウイ	wi		ウエ	we
				ウオ	wo
ヴァ	va	ヴィ	vi	ヴ	vu
				ヴェ	ve
				ヴォ	vo
				ヴュ	vyu
				スイ	si
				シェ	she
				ズイ	zi
				ジェ	je
				ティ	ti
				トゥ	tu
				チェ	che
				ディ	di
				ドゥ	du
				ヂェ	je
ファ	fa	フィ	fi	フェ	fe
				フォ	fo

- ②長母音の表記は、「u」「h」の文字を使わない（例：通り tori）。ただし長母音が二つの漢字で表す場合は、母音の文字を繰り返す（例：地域 chiiki）。
- ③小さい「っ」で表記される促音は、多くの場合英語の子音の文字を重ねて表記する（例：一方 ippo）。ただし、ch と ts の前では、t を使う（例：密着 mitchaku）。
- ④名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞は、別々の単語として、スペースで区切る。
- ⑤助詞の「は」、「へ」、「を」はそれぞれ wa, e, o と書く。
- ⑥母音や「y」の前に「n」がある場合、「n」を「n'」と表記する（例：山陰 San'in, 南洋 nan'yo）。（参考）東京大学教養学部英語部会／教養教育開発機構（2009）
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/eigo/romaji.html>
- ⑦カタカナ表記の外来語は、原語ではなく音で表記する（例：フェーン現象 Fen gensho）。

4. 図・表

- (1) 図（写真を含む）・表は、論文の位置づけや論証に必要なものに限り作成する。
- (2) 本文における各図・表の挿入希望位置を本文右の欄外に明記する。
- (3) 図・表の刷り上がりのおおきさは、左右の一辺が7 cm 以内（片段の幅）もしくは14 cm 以内（両段の幅）におさまることに留意する。著者は片段と両段のいずれかを指定することもできるが、編集の都合により編集専門委員会が変更することもある。
- (4) 図・表の色はグレースケールを基本とする。ただし、必要であればカラーの図も認める。

【図の注意点】

図の下に図の番号・表題・注・資料等をつける。図の番号は、第1図、第2図……とする。また、原則として、図の枠はつけない。注・資料にも句読点を付す。

図が明瞭でない場合は、描き直しを求めるか、もしくは編集専門委員会が外注し、費用の一部を著者の負担とする場合がある。

カラーの図の場合、印刷にかかる費用は、原則として著者の負担とする。

【表の注意点】

表の番号は第1表、第2表……とする。表の注・資料等は表の下に記す。注・資料にも句読点を付す。表中の罫線は必要最小限にとどめる。

5. キーワード

原稿（翻訳と書評を除く）には、日本語および英語のキーワードを付ける。キーワードは、日本語・英語とも6語程度を著者名の後に記入する。キーワードは研究内容（地域・対象・方法など）を明確に表し、検索語としての一般性を十分備えたものを用いること。

【例】

キーワード：広島市，都市計画，土地利用，修正ウィーバー法，インナーシティ，
ジェントリフィケーション

Key words: Hiroshima-city, city planning, landuse, modified Weaver's method, innercity,
gentrification

6. 受理後の対応

- (1) 受理後に以下のファイルを提出する。テキストは Word ファイル等，図は刷り上がりのサイズで解像度 300 dpi 以上の画像ファイル (tiff, png, jpg 等)，表は Excel ファイル等をそれぞれ提出する。
- (2) 受理後のファイルの提出方法はメール添付を基本とするが，ファイルサイズが大きい場合は，別途編集専門委員会より指示を行う。

【編集専門委員会より】

原稿作成上のその他の留意事項は以下の通りである。

- ・規定の書式にあわせた原稿の Word ファイルが学会サイトにある。これをダウンロードして利用するとよい。ただし，図・表はこのファイルを使わないこと。
- ・実際の動作を伴わない場合の表現は，「みる／みられる」，「いう／いわれる」のように平仮名とする。
- ・句読点の間違い。正しくは「。」および「，」であり，「.」や「、」は使わない。
- ・編集書を引用する場合には，○○○編の「編」の欠落がみられることが多いので，忘れずに記載する。文献表だけでなく，本文や注での引用箇所，図表の説明文や出典についても同様である。
- ・文献のページ表記は，巻ごとに通しページになっている雑誌論文等の場合は，掲載号のページ番号を記すのではなく，巻の通しページを用いる。